

## 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例あります。型は、O103 VT1です。O103は、本市では、平成14年(1例)以来の報告です。O103の、本年の全国累積報告数(第1週～第31週)は、6例です。
- ジアルジア症の報告が1例あります。本市では、本年初めての報告です。本年の全国累積報告数(第1週～第31週)は、47例です。
- 手足口病の定点当たり報告数は1.63で、第29週をピークに減少していますが、過去5年平均値(1.04)を上回る状態が続いています。年齢階級では、1歳及び3歳の各13例(19.4%)が最も多くなっています。

## 今週のトピックス:&lt;咽頭結膜熱&gt;

- 咽頭結膜熱の、第31週の定点当たり報告数は0.61(25例)で、第28週以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。  
詳細をトピックスに掲載しています。

## 発生状況

## 全数報告の感染症

- 二類:結核 5例(喀痰塗抹陽性 2例,無症状病原体保有者 なし)  
【1月以降の累積報告数 218例(喀痰塗抹陽性 68例,無症状病原体保有者 20例)】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O103 VT1) 1例 【1月以降の累積報告数 58例】
- 五類:ジアルジア症 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類:麻しん 1例 【1月以降の累積報告数 103例】

## 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68,小児科定点41,眼科定点10,基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	感染性胃腸炎	1.90	78
	手足口病	1.63	67
	ヘルパンギーナ	1.46	60
	水痘	0.80	33
	咽頭結膜熱	0.61	25
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

## 病原体情報

ありません。

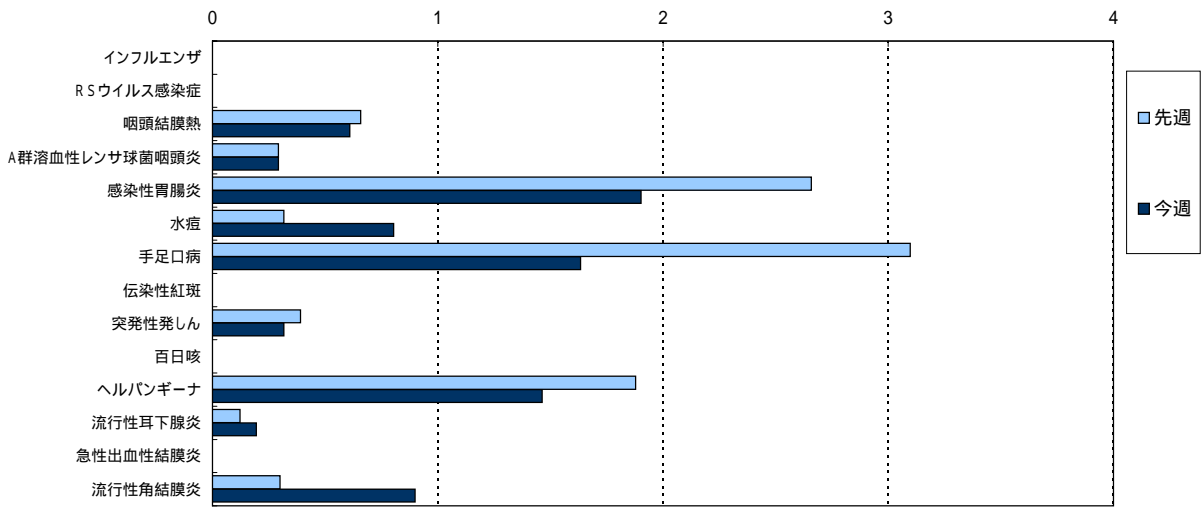
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:&lt;咽頭結膜熱&gt;

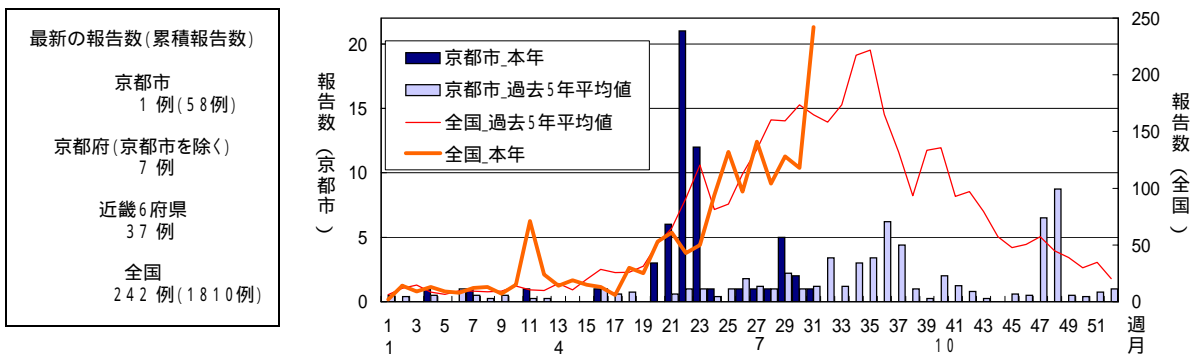
(注)京都市のデータは、平成20年8月11日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第31週)と先週(第30週)の定点当たり報告数の比較

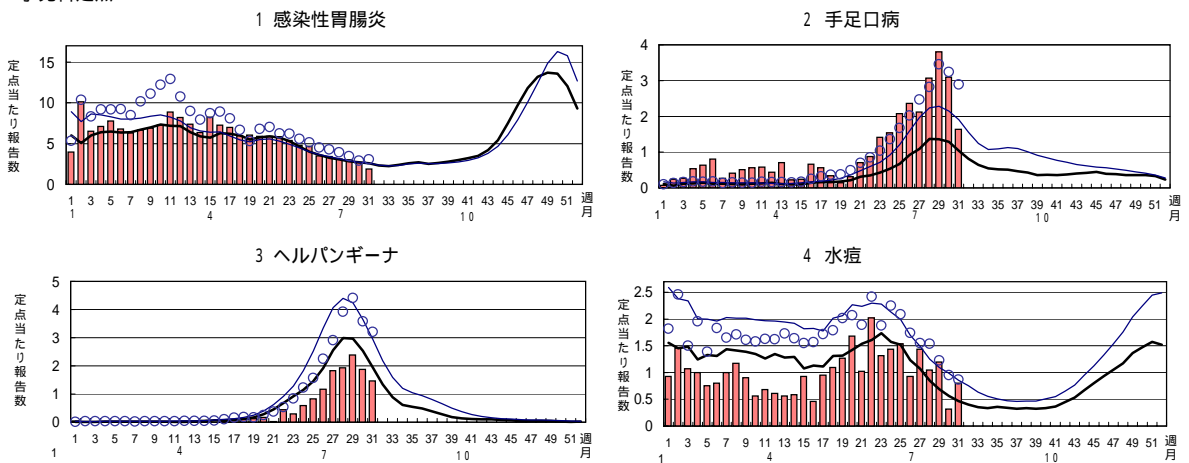


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

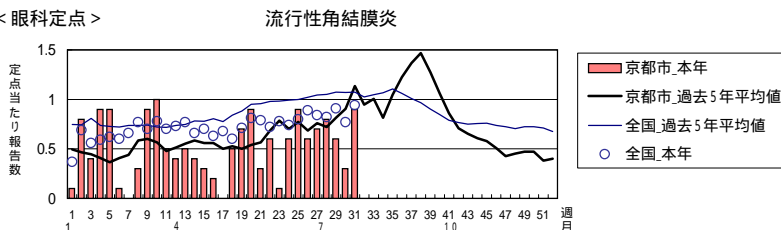


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 今週(第31週)のトピックス: <咽頭結膜熱>

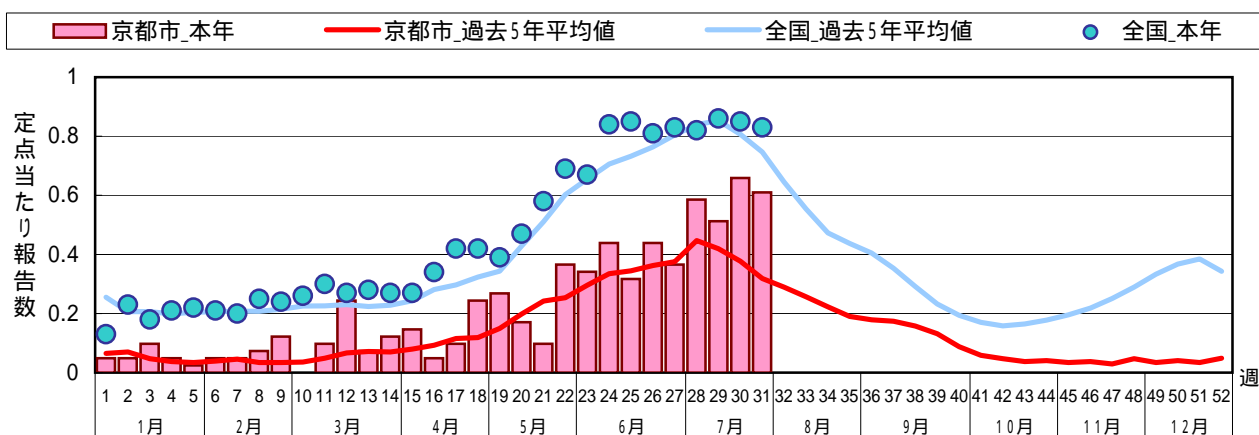
咽頭結膜熱の、第31週の定点当たり報告数は0.61(25例)で、第28週以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。

本市における、平成9年以降の定点当たり報告数の推移では、平成18年に大流行がありました。本年の第30週及び第31週の定点当たり報告数は、この平成18年を除く11年の中で、最も多くなっています。

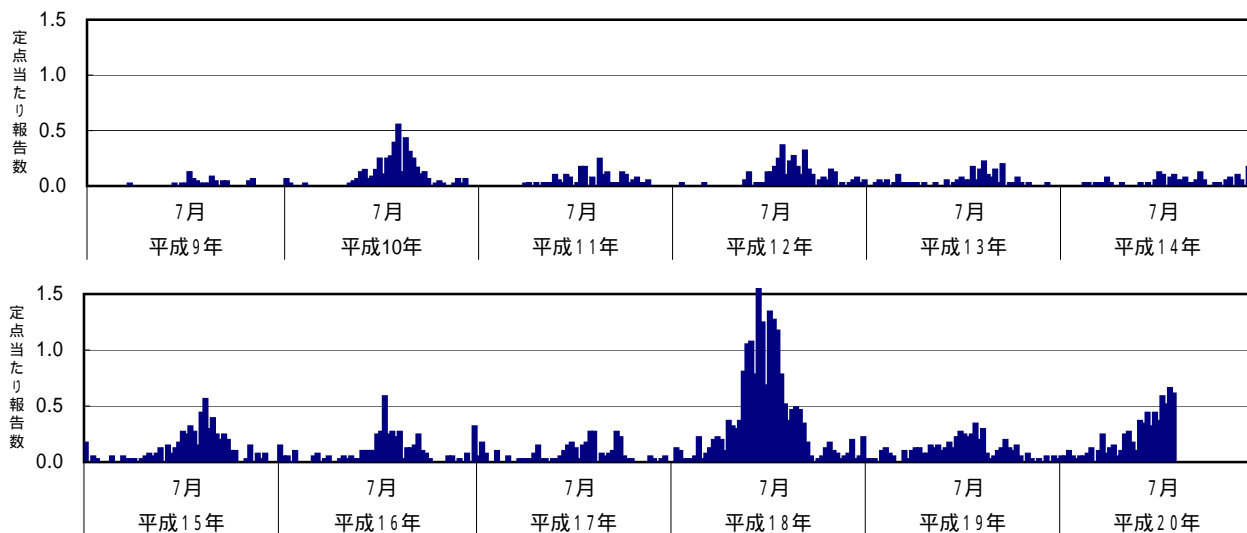
第31週に報告のあった25例の年齢階級別内訳をみると、5歳の報告が最も多くなっています。

咽頭結膜熱は、アデノウイルスが病因となりますが、本年は、8月7日現在の国立感染症研究所感染症情報センター 病原微生物検出情報によると、咽頭結膜熱由来ウイルスとして、アデノウイルス2型及び3型が、多く検出されています。(http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/s2graph-kj.html)

定点当たり報告数の推移(平成20年第1週～第31週)



本市の定点当たり報告数 推移(平成9年～平成20年第31週)



年齢階級別 第31週 定点当たり報告数

